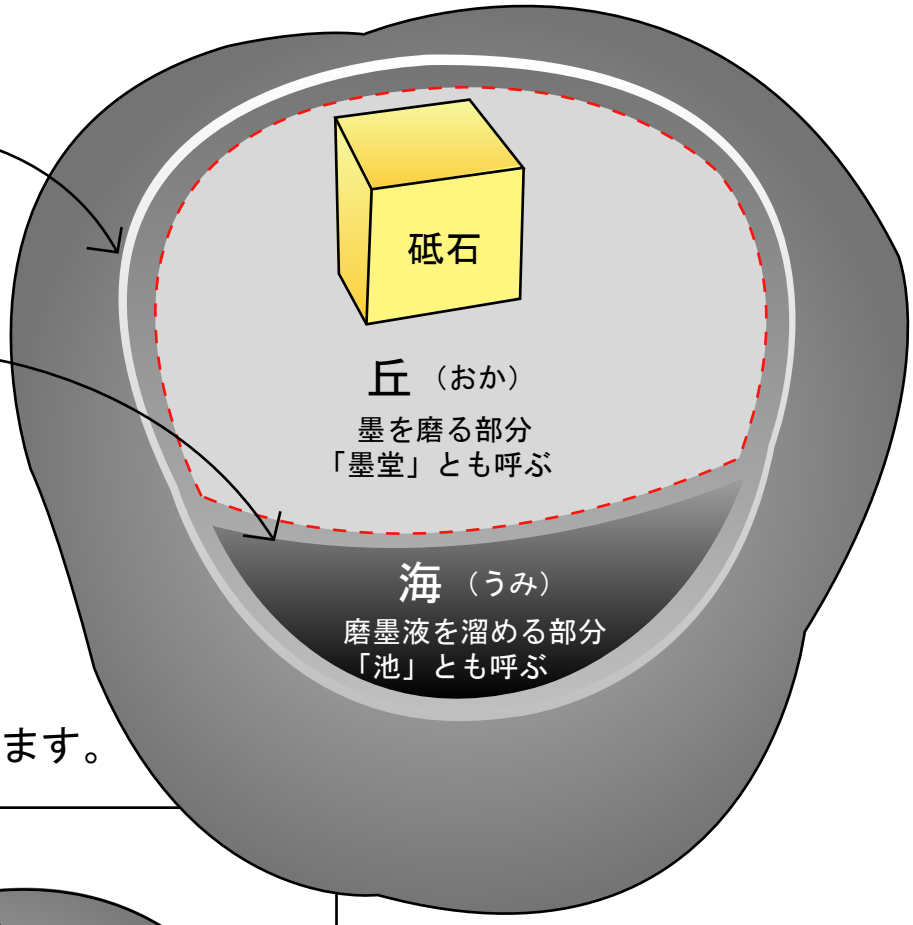
書道用具専門店

西本皆文堂

砥石のかけ方

砥石は基本的に硯の「丘」（墨を磨る部分。「墨堂」とも言う）にかけます。皆文堂店頭にて販売しております砥石（バラ売り用・特価６００円）をそのまま使っても良いですが、老坑・坑仔岩などの鋒鋩（表面の凹凸部分）が細かい硯などは、砥石を少し砕き、薄く小さくして使った方が良いようです。なるべく丘のふちの部分（「硯唇」といいます）に、砥石が当たらないようにして下さい。ゆっくり円を描くように、軽くかけるのがポイントです。「じゃり、じゃり」という音や、毛羽立ったような手ごたえを感じたら、鋒鋩が立ってきた証拠です。適当な所でやめ、水で砥いた後の汚れをきれいに落としましょう。



硯唇（けんしん）

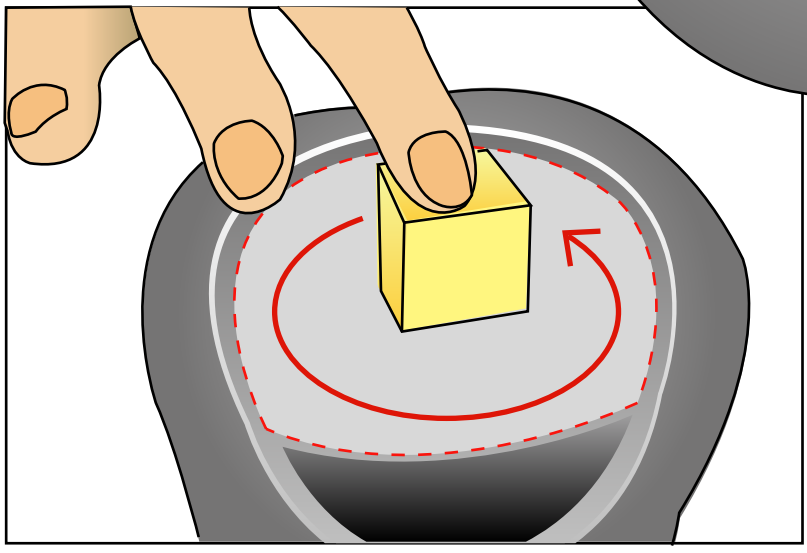
海・丘の周りのふち部分
砥石をかける際には
この部分に当たらない
ように注意すること。

落潮（らくちょう）

海と丘の間の傾斜部分
「舌」とも呼ぶ

その他にも・・・

硯の表面を硯面（けんめん）、
裏側を硯陰（けんいん）、
側面を硯側（けんそく）と言います。



砥石を指で軽く抑え、
円を描くようにゆっくりと
まわします。